

○訪問型サービス

	付議理由	会議結果	選択したサービス
Case1	○股関節人工骨頭置換術で退院直後 ○入浴の不安大きく、身体介護が必要	現行相当：②に該当	術後なので自宅の入浴動作が安定するまで必要。 1カ月間、現行相当と並行して訪問リハ、住宅改修を利用の後、改善されれば緩和型へ移行予定
Case2	○癌が再発し、病状の増悪が考えられ、身体介護が必要	現行相当：④に該当	癌により、特別食など専門的な支援が必要。今後、癌の進行具合で医療的な支援の導入が必要。 認定結果が要介護1となり、総合事業の利用なし
Case3	○心不全等で下腿浮腫や労作時呼吸困難、倦怠感があり、身体介護が必要	現行相当：④に該当	入浴や外出時に心不全の影響で息切れし、転倒リスクが高く身体介護が必要。今後、通所リハ等を利用することで機能改善を図り、自立を目指す。 7～12カ月程度、現行相当を利用予定
Case4	○肺疾患により、入退院を繰り返し、今後も増悪の見込という医師判断 ○在宅酸素療法を導入し、退院直後	現行相当：④に該当	在宅酸素導入直後で、専門職による全身状態の観察、日常生活での管理が必要。 1カ月間、現行相当を利用予定

○通所型サービス

	付議理由	会議結果	選択したサービス
Case1	○股関節人工骨頭置換術で退院直後 ○入浴の不安大きく、身体介護が必要	現行相当：②に該当	今後、自立へつながるように、住宅改修・運動デイ等の検討が必要。 7～12カ月程度、現行相当を利用予定
Case2	○自宅で転倒後、心因性ショックとなり ○入浴時に介助必要	現行相当：②に該当	転倒前、入浴は自立しており、改善が見込まれるため、短期集中的な専門職の指導が必要。 4～6カ月程度、現行相当を利用予定
Case3	○肺疾患により、入退院を繰り返し、今後も増悪の見込という医師判断 ○在宅酸素療法を導入し、退院直後	現行相当：②に該当	在宅酸素導入の影響により、活動範囲の狭小化が見られている。専門職による身体機能の向上が必要。 4～6カ月程度、現行相当を利用予定
Case4	○精神疾患により、入退院を繰り返し ○廃用を来している。	現行相当：①に該当	精神疾患による意欲低下の影響から廃用に陥っている可能性が高く、専門職による関わりが必要。 4～6カ月程度、現行相当を利用予定
Case5	○重度の糖尿病で専門職による全身管理が必要。	緩和型	週1回のデイ利用では全身管理を行うには限界があり、今後、医療的な関わりが必要。 訪問看護や住宅改修等を利用
Case6	○呼吸器疾患により、短期間の入院直後のため、専門職による観察が必要	現行相当：②に該当	病態の著明な増悪は認めないが、入院によるADL低下は認められるため、短期集中的な専門職の指導が必要。 緩和型を利用